

小学校外国語科における「読むこと」「書くこと」の「思考力・判断力・表現力等」の指導 ——デジタル教科書教材を活用して

高橋 美由紀
柳 善和

キーワード：小学校英語教育、教材分析、デジタル教科書

1. はじめに

本研究の目的は、第一に 2020 年度から導入されている小学校外国語科において、デジタル教科書が実際の小学校でどのように現在使用されているかを調査することである。第二に、「読むこと」「書くこと」の活動における「思考力・判断力・表現力等」について、デジタル教科書教材がどのように扱われているかを調査することである。

第一の目的については、筆者らが指導のために交流している S 市内の小学校教員に質問紙調査を行ってその結果を検討する。第二の目的については、調査した S 市内の小学校で使用されている検定教科書に付属したデジタル教科書について調査分析し、デジタル教科書を活用した「読むこと」「書くこと」の効果的な指導、とりわけ「思考力・判断力、表現力」の育成について示唆を得る。

2. 研究の背景

(1)小学校新学習指導要領

2017 年に改訂された小学校学習指導要領(以下、新小学校学習指導要領)において、従前は第 5 学年から「外国語活動」が必修の「領域」として年間 35 時間実施されてきたが、新小学校学習指導要領では、「外国語活動」は第 3 学年と第 4 学年で年間 35 時間実施される。また、第 5 学年からは、新たに教科としての

「外国語科」が設定され年間 70 時間実施されることとなった。

学習指導要領全体の内容としては、(1)知識及び技能が習得されるようにすること、(2)思考力、判断力、表現力等を育成すること、(3)学びに向かう力、人間性等を涵養すること、を実現するように求めていることが特徴の一つとなっている（文部科学省 2018a : 18）。

本論文で扱う小学校外国語科の「読むこと」「書くこと」の目標は次のように掲げられている。

（読むこと）

- ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。
- イ 音声で十分慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。

（文部科学省 2018a : p.157）

（書くこと）

- ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。
- イ 自分ことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

（文部科学省 2018a : 157）

さらに、これらの目標に対して、「思考力・判断力・表現力等」の内容が次のように掲げられている。

(2)情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項

具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを表現することを通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。

- ア 身近で簡単な事項について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちを伝え合うこと。
- イ 身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりすること。

(文部科学省 2018a : 159)

以上のような内容をもとにして、2020年度から新小学校学習指導要領が実施されている。そこで、第3章では、小学校現場でのデジタル教科書の活用、第4章では、実際の指導者用デジタル教科書でどのような教材が扱われるかを調査する。

(2)小学校における ICT の普及とデジタル教科書

文部科学省では毎年「学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果」として、学校での ICT 環境の整備状況に関して報告書を発表している(文部科学省 2018c)。これによると、2020年3月1日現在の、「教育用コンピュータ1台あたりの児童生徒数」は4.9人(小学校のみで見ると5.5人、以下同じ)であり、普通教室の無線 LAN 整備率は48.9%(51.6%)である。同様に、「普通教室の大型提示装置(プロジェクタ、デジタルテレビ、電子黒板等)整備率」は60.0%(69.8%)、「指導者用デジタル教科書整備率」は56.7%(60.1%)、「学習者用デジタル教科書整備率」は7.9%(7.7%)であるとしている。

この資料では、過去10年間の整備状況の推移、各都道府県別の整備状況も掲載されており、整備が着実に進んでいることが分かる。一方で、2019年末から新型コロナウイルス(COVID-19)感染症の拡大に伴い、オンライン授業の導入が進められている。それによって、学校現場で使用するコンピュータだけでなく、

児童生徒が個人で所持する、いわゆるタブレット PC の導入も進んでいる。

文部科学省は 2022 年度から紙の教科書をデータ化した「デジタル教科書」を全小中学校に無償で配布することを発表している(朝日新聞 2022 年 1 月 8 日)。デジタル教科書のメリットとして、中川は (2019)、①書き込みやすい&消しやすい、②音声を聞いたり、映像を見たりすることができる、③結果だけでなく経過に焦点を当てることができることを挙げている (中川 2019 : 46)。

3. デジタル教科書の活用に関する調査

(1)調査方法

この調査はデジタル教科書の活用について、小学校の教員を対象に実施した調査である。調査時期は、2021 年 5 月で、対象は、筆者の 1 人が研修等で出入りしている S 市の教育委員会を通じて現場の小学校の教員に依頼した。S 市は人口が約 20 万人で、小学校数は 30 校である。回答人数は 29 名であった。S 市では、指導者用デジタル教材は全校で使用可能となっており、教育委員会のサーバーにアクセスして使用する形態になっている。また、S 市では児童用タブレット PC は全員に配付済みであるが、その扱いについては学校ごとに異なっており、今回の調査対象とはしていない。

(2)調査内容

調査内容は以下の項目である。

①デジタル教科書を小学校外国語（英語）活動・外国語科の授業で活用していますか？

4.毎時間活用している 3.活用している 2.ほとんど活用していない 1.全く活用していない

②デジタル教科書はどんな授業の時に、どのように活用していますか？具体的にお書きください。

(i)一斉学習の場面

(ii)グループ学習の場面

(iii)個別学習の場面

(iv)特別な配慮を必要とする児童生徒等の学習上の困難の低減

(v)その他（回答例を以下に示します）

- ・学習内容の理解を深めたり興味関心を高めたりするため
- ・教師の教材準備や黒板への板書の時間を削減し児童生徒に向き合う時間を増やすため

- ・児童生徒の学習の進捗・習熟の程度や学習の過程を把握するため

③「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」との関連について

④デジタル教科書を活用した指導についての課題についてありますか。

⑤指導と評価について、デジタル教科書を活用して行うことについてのご意見をお書きください。

(3)調査結果

以下に調査結果を示す。なお、②以下の記述式回答を求める項目では代表的と考えられる回答のみを示している。

①デジタル教科書の利用頻度

「4.毎時間活用している」が24名、「3.活用している」が4名、無回答が1名であった。

②デジタル教科書の活用方法

(i)一斉学習の場面

- ・チャンツや発音練習、Story を観るなど
- ・本時の内容把握。発音を聴く。楽しく活動するため興味を持たせる。
- ・リスニングやチャンツ等の動画で活用している。新出単語を提示する

(ii)グループ学習の場面

- ・活動内容の説明

- ・発展的な学習として教科書に登場する外国児童と自己紹介等の疑似体験

(iii)個別学習の場面

- ・映像資料を児童用 Chromebook にイヤホンをつけ個別に見せる

(iv)特別な配慮を必要とする児童生徒等の学習上の困難の低減

- ・デジタル教科書を見る→聞く→音声と一緒に発話する、といったスモールステップを踏む
- ・イラストを使って話の内容を推測させてから聞く。

(v)その他

- ・学習内容の理解を深める興味関心を高める
- ・教師の教材準備や板書の時間を削減し、児童生徒に向きあう
- ・授業者では正しい発音等ができないので、デジタル教科書に入っている音声に頼っている

③「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」

- ・「知識・技能」主にインプットの場面で活用している
- ・子ども達が映像とネイティブな発音に興味を持ち「主体的に取り組む姿」が見られた。学習に意欲を持つことができる
- ・音声の後に聞いてリピートしたり、発音を聴きとったりするのに適している。ワールドツアーのように海外の文化に触れ思考を深めることができる
- ・リスニングの時に動画付きだとリスニングが難しい子どもにとって助かる。教科書と同じところを見せられるので、どこをするのかが子供たちにわかりやすい。
- ・本物の発音に触れたり、タイムリーに挿絵などを見たりすることができることで、教室内に学びの一体感が生まれる。

④デジタル教科書を活用した指導についての課題についてありますか。

- ・教師用しかないなので、児童用の教材を見てみたい。他のソフトを使用している。

- ・デジタル教科書の動きが悪い時や音声が入らなく入らない時があり、子ども達を待たせてしまうことがあった。
- ・全てを使用していくには量が多く指導に合わせて内容の精選が必要と感じる。
- ・どのようなコンテンツがあるのかを把握するのに時間がかかる。英語の授業にかける時間の割合が大きくなり他の授業を圧迫する。

⑤指導と評価について、デジタル教科書を活用して行うことについてのご意見をお書きください

- ・意欲的に活動する子が多い。前に出ることが恥ずかしいという子も楽しく活動できる。
- ・そのユニットでつけたい力や学ばせたい語彙が流れにそって配置されており、とても使いやすい
- ・デジタル教科書をきっかけとして、教師一人一人の指導力が向上すれば、子どもの技能も向上すると考えられる。
- ・聞くだけでは理解できないことも、デジタル教科書で映像を見ることで理解できることもある。
- ・児童に「振り返り」を投稿させ、児童がお互いに「返信」しあっている。児童の「話す（会話・発表）」の知識・技能面の評価に活用している。
- ・デジタル教材に入っている質の高い材料を使うことは授業の質を高めるし、デジタル教材を児童に提示している間、教員は児童の観察ができるので、評価はしやすくなった。
- ・活動例が発音などを示す時に活用でき、評価のポイントとなる点について子ども達に具体例を示しながら指導が行えるので、使い勝手は良いと思う。

(4)考察

デジタル教科書の利用頻度については、ほとんどの教員が毎時間活用していることが分かった。デジタル教科書は、「教師の教材準備や板書の時間を削減し、児童生徒に向きあうことができる」との回答や、「授業者では正しい発音等がで

きないので、デジタル教科書に入っている音声に頼っている」等の回答から、デジタル教科書のメリットとして挙げられているように（中川 2019）、外国語教育では「音声を聞いたり、映像を見たりすることができる」ことに活用されていることがわかる。

デジタル教科書は、「知識・技能」の育成として、①動画視聴による教科書の内容把握、②チャンツや発音練習等の音声指導、③デジタル教科書を視聴する→音声と一緒に発話する等インプットからアウトプットにつなげる練習、④リスニング活動から児童のワーク（線で結ぶ、回答を日本語で書く等）、⑤新出語彙を提示して、音声を聞かせながら文字指導ができること等が挙げられている。また、「主体的に学習に取り組む態度」では、①児童がアニメーションを視聴することで、教師がゲームや発表の方法等を説明するよりも楽しく学習できる、②子ども達が映像とネイティブな発音に興味を持ち「主体的に取り組む姿」が見られた。学習に意欲を持つことができる、③本物の発音に触れたり、タイムリーに挿絵などを見たりすることができることで、教室内に学びの一体感が生まれる、④意欲的に活動する子が多い。前に出ることが恥ずかしいという子も楽しく活動できる等が挙げられている。

一方、「読むこと」「書くこと」の活動でデジタル教科書を効果的に活用するための指導や「思考・判断・表現」を育成するための指導についての課題があることがわかった。

4. デジタル教科書を活用した「読むこと」「書くこと」の指導のポイント

(1) 「読むこと」の指導のポイント

『学習者用デジタル教科書実践事例集』における外国語科では、中学校での事例のみであり小学校の事例は掲載されていない。そのため本論文では、小中連携の外国語教育を考慮し、中学校の事例を参考にしながら、小学校外国語教育に焦点を当てたデジタル教科書の指導について述べる。

デジタル教科書を活用することで、中学校第三学年の「英語読解」では、「読解や音読活動に対する生徒の苦手意識を払しょくすることができる事例」とし

て、「デジタル教材（フラッシュカード等）」を活用してスピーディな授業展開でまとまった分量の英文を素早く読む力を育成することができることや、「デジタル教科書と連携した朗読ツール」を活用して、英語の発音に自信がない生徒に英語の発音を確認させることで、音読活動への積極的な参加を促すことができることや、さらに教科書の本文を見ずに、音声とピクチャーカードから教科書内容を理解させることで、内容の要点を生徒にしっかりと理解させることができること等が述べられている（文部科学省 2019：28-29）。

これらの事例を参考にして、小学校外国語教育の「読むこと」の指導を考察すると、ポイントとしては、①意味が分かり音声に慣れ親しんだ英文について、意味と音声と文字を結び付けるために音声化をする、及び②目的意識をもち、内容を推測しながら読む、が考えられる。

まず、①については、第 1 に、英語を読む際には、誌面の英文を指で押さえながら音声を聞くよう促したり、音声を繰り返し聞かせたりするなど、音声と文字を結び付けて捉えられることができるような支援をすることが考えられる。第 2 に、英語をある程度読めるようになることは、英語学習への更なる動機付けになるとともに、中学校以降の英語学習への円滑な移行を促進することも期待される。

次に、②については、何らかの目的（例えば「書いた人は誰かを考える」「視覚教材等から書かれている内容を推測する」等）を達成するために読ませることで、「読むこと」における「思考力、判断力、表現力等」が育成されることが期待される。

図 1 では、「世界の友だち」として、「ニライさんの行きたい国と、したいことは何でしょう。」という文章を読む。活動としては、(1)行きたい国と、そこでしたいことについての内容を読む、(2)ここでは、日本を訪れたいと思っているニライさんの文章を読みながら、なぜ、日本に行きたいのか？を考えながら読む、(3)自分たちが持っている日本のイメージと同じか違うかを比較しながら読む、(4)ニライさんに同調しながら読み、さらに、この文を読んでニライさんが興味を持っていることで教えてあげたいことについて、絵や文で表現する

ことが考えられる。

図2では、ニライさんのメッセージ（自己紹介）を示している。紙の教科書にはない機能として、デジタル教科書にはニライさんのスピーチを聞くことができ字幕が画面の下に現れる。字幕は、英語と日本語を選択できる。「聞くこと」から「読むこと」への活動につなげ、①意味が分かり音声に慣れ親しんだ英文について、意味と音声と文字を結び付けるために音声化をする、及び②目的意識をもち、内容を推測しながら読む活動が可能である。さらに「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、友だちが話すことを音声で聞き、そこで慣れ親しんだ表現について読む活動を行うことができる。そして、図1の場合と同様に、(1)名前、誕生日、誕生日に欲しいもの等について話す、(2)この少女（ニライさん）になって、自己紹介文を読む、(3)ニライさんの自己紹介と自分を比較しながら、どういった表現を用いて自己紹介の SCRIPT を書くと友達がより理解してくれるかを考える、という活動が考えられる。



図1 世界の友だち (Here We Go! 6 : 48)



図2 「字幕」を読む活動 (Here We Go!6 : 48)

(2) 「書くこと」の指導のポイント

『学習者用デジタル教科書実践事例集』の中学校第三学年の「書く活動」では、①話し言葉を書き言葉に変換させることで、文法の正確さを確かめやすくなる。例えば、文法学習の場面で、生徒自身が話した文を実際に書き出させることで、書き言葉としての文法の正確さを確認させる。②教師が誤りを指摘するのではなく、生徒同士で文法上の誤りを確認させることにより、より効果的に文法の定着を図ることができることがデジタル教科書の活用ポイントとして挙げられている。(文部科学省 2019 : 31)

文法指導については、中学校では「文、文構造及び文法事項」として指導することになっているが、小学校外国語教育では、「文及び文構造の指導に当たっては、文法の用語や用法の指導を行うのではなく、言語活動の中で基本的な表現として繰り返し触れることを通して指導すること」と言及されている(文部科学省 2018b : 66)。一方、書く活動では、「自分が好きな人やことを他者に紹介する活動において、“I like baseball. My favorite baseball player is ～.”を例としながら、自分の考えや気持ちを表現するために、語順を意識しながら、baseball などの語を替えて、“I like music. My favorite musician is ～.”と書くこと」等が示されている(文部科学省 2018b : 113)。これらのことから、「書くこと」の指導のポイントとしては、①音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写したり書いたりする、という順序性を踏まえること、及

書き写す」ことで、(1)友だちができることについて考える、(2)基本的な表現を書き写すことから、さらに、友人が「何ができるか？」等、できることについて考え、その表現についてデジタル教科書にある「辞書機能」等を活用したり、教科書にないことも含めて探して、もっと多く書く、(3)「友人紹介の文」を書いて、異なったクラスや外国の友達に紹介する。また、「友人の紹介文」を書いて、「読むこと」と連携させて作者を当てる、といった一連の活動が考えられる。特に、「他者を意識して「読んでもらう」ことを考えながら書く」という点は、学習者に「書くこと」の動機付けを与えるという点でも重要である。

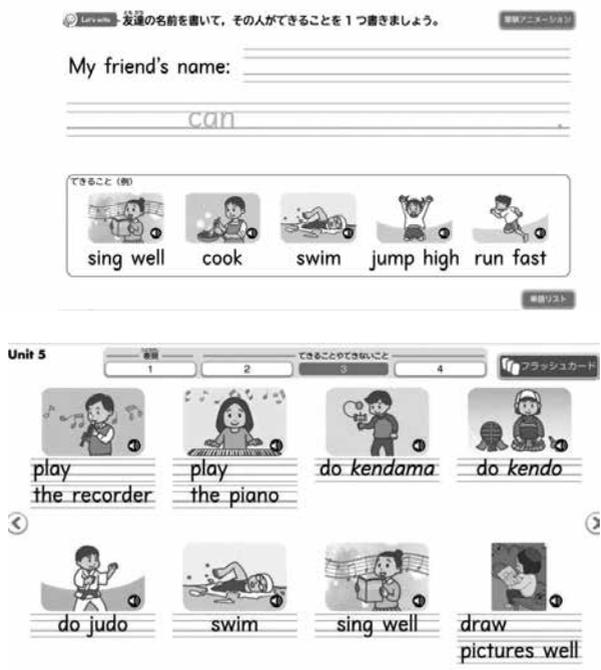


図4 友だちの名前と友だちができることを書く活動と単語リスト (Here We Go! 5 : 67)

図5では、「会話を聞いて、将太が行った場所、見たもの、感想を書きましょう」の活動では、簡単な語句や基本的な表現を音声で十分に慣れ親ませると同時に、字幕も活用して「聞くこと」「読むこと」の活動から始める。音声とともに流れる字幕は「読むこと」の活動から、児童が語順を意識しながら「書くこと」の活動へとつなげるためには効果的である。そして、次頁の自分の考えや気持ちを表現するための「書くこと」の活動として「思い出に残る行事の発表（図6）」として、語順を意識しながら自分の「My Best Memory」を書かせる活動に発展させる。

さらに、自分の思い出に残る場所やそこでしたことを「友だちに伝えましょう」という活動を行う。なお、図6の右上にある「ワークシート」ボタンをクリックすると、この活動で使うワークシートが現れ、印刷することができる。これを使うと、友達に伝えるための文を整理しながら書くことができる。また、発表の順序を考え、効果的な内容になるように検討することもできる。

これらの活動によって、まさに小学校学習指導要領が求めている、「思考力・判断力・表現力等」の育成が期待される。

Let's watch 会話を聞いて、将太が行った場所、見たもの、感想を書きましょう。



行った場所	
見たもの	
感想	

図5 将太が行った場所、見たもの、感想を記入する（Here We Go!6：84）



図 6 思い出に残る行事の発表 (Here We Go!6 : 85 Unit 7 デジタル教科書から)

5. 結論及び今後の課題

本論文の結論として、第一に、デジタル教科書を小学校の教員がどのように使用しているかについて調査した。そして、自校サーバーではないことから操作性がやや低下している事象が見られるなど不具合もあるが、全体としては教員がデジタル教科書に対して好意的であることがわかった。しかしながら、デジタル教科書の操作方法や含まれている内容について十分に把握できていないとする回答もあり、この点は小学校の教員が原則としてすべての教科を担当しなければならない、負担が大きいことなども原因であると考えられる。

指導内容については、視聴覚教材として内容把握や音声指導が中心であり、「知識・技能」や「主体的に学習に取り組む態度」を育成する指導に活用していることがわかった。また、「読むこと」「書くこと」の指導では活用されていないことや「思考力、判断力、表現力等」の育成には課題があることもわかった。

2020年度から使用されている検定教科書とその付属のデジタル教科書の内容

を検討して、「読むこと」「書くこと」について、新学習指導要領で強調されている「思考力、判断力、表現力」を養成するための教材が多く含まれていることを確認した。その内容については本論文の第四章で示されている。

今後の課題としては、第一に、2020年度から初めて小学校外国語科の検定教科書が発行され、印刷版の教科書及び指導者用デジタル教科書がさらに使い勝手のいいものとなるように、様々な意見交換がなされることが求められる。第二に、今回初めて発行された学習者用デジタル教科書についても、幅広く普及していくものと期待されるが、その内容について検討が重ねられることも期待されることである。

(鈴鹿大学・名古屋学院大学)

謝辞：本発表は「読むこと・書くこと」の主体的協働的な学びにおける初等英語カリキュラム開発と評価」(H29-R3) 課題番号 17K03008 (この課題番号 17K03008 は当初平成 29 年度から 31 年度までの予定であったが、その後令和 3 年度までに期限が延長されている。)、及び「児童の主体的協働的な学びを深め発信力を高める英語の「読み・書き指導」の開発と評価」(R2-R4)課題番号 20K00858、の成果の一部である。

また、質問紙調査に協力していただいた S 市の先生方に御礼申し上げます。

引用文献

朝日新聞 (2022) 「デジタル教科書、新年度から全小中学校に配布まずは「外国語」から」

<https://www.asahi.com/articles/ASQ1853PLPDXUTIL02V.html>

(2022,1,8)

文部科学省(2017a)『小学校外国語活動・外国語科研修ガイドブック』旺文社.

文部科学省(2017b)「平成 30 年度以降の学校における ICT 環境の整備方針について」

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afield

[file/2017/12/26/1399908_01_3.pdf](#)

文部科学省(2018a)『小学校学習指導要領』東洋館出版社.

文部科学省(2018b)『小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編』開隆堂.

文部科学省(2018c)「令和元年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果
(概要)」https://www.mext.go.jp/content/20201026-mxt_jogai01-00009573_1.pdf

文部科学省(2019)『学習者用 デジタル教科書 実践事例集』

中川一史 (2019) 「「デジタルならではの」のメリットを活かそう」文部科学省(2019: 46)
『学習者用 デジタル教科書 実践事例集』

Here We Go! 5, 光村図書.

Here We Go! 6, 光村図書.